

# コロナ禍における教員養成課程のピアノ指導

平井 李枝・平井 裕也

宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要 第9号 別刷

2022年8月31日



# コロナ禍における教員養成課程のピアノ指導<sup>†</sup>

平井 李枝\*・平井 裕也\*\*

宇都宮大学共同教育学部\*

大阪教育大学教員養成課程音楽教育部門\*\*

世界的に流行している新型コロナウイルス感染症により、大学の教員養成課程のピアノ指導は授業形態や指導方法に様々な対応が求められている、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置は自治体単位で発出されるため、地域による差が大きい。本稿では、令和3年度の大半が緊急事態宣言やまん延防止等重点措置期間となった大阪教育大学音楽教育部門から、オンラインによるピアノ指導の実践を報告する。

キーワード：ピアノ指導、ピアノレッスン、オンライン、動画、新型コロナウイルス感染症、スマートフォン

## はじめに

2020年から世界的に流行している新型コロナウイルス感染症により、今もなお人々の生活が制限されている。大学では緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の実施に伴い、授業形態を変えるなどの対応を迫られた。

筆者1（平井李枝）が勤務する宇都宮大学では令和3年度、実技を伴う科目として、ピアノ実技指導は毎週対面で行うことができた。

しかし、首都圏や関西圏の大学ではまん延防止等重点措置や緊急事態宣言の期間が長期に渡ったため、ピアノ実技指導にも様々な工夫が必要となった。

表1からも明らかのように、栃木県と大阪府では令和3年度におけるまん延防止等重点措置および緊急事態宣言実施期間が異なっている。そこで、本報告では大阪教育大学より、対面とオンラインの2つの方法を駆使して実施したピアノ実技指導のうち、

オンライン指導について、著者2（平井裕也）からの実践報告を掲載することにする。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
栃木					8/8-8/19 まん防	8/20-9/30 緊急事態						1/27-3/21 まん防
大阪	4/5-4/25 まん防	4/25-6/20 緊急事態	6/21-8/1 まん防		8/2-9/30 緊急事態							1/27-3/21 まん防

栃木県[まん防] 2021/8/8（日）～8/19（木）  
[緊急事態]2021/8/20（金）～9/30（木）  
[まん防] 2022/1/27（日）～3/21（月）

大阪府[まん防] 2021/4/5（月）～4/24（土）  
[緊急事態] 2021/4/25（日）～6/20（日）  
[まん防] 2021/6/21（月）～8/1（日）  
[緊急事態] 2021/8/2（月）～9/30（木）  
[まん防] 2022/1/27（日）～3/21（月）

表1 令和3年度における栃木県と大阪府のまん延防止等重点措置（まん防）と緊急事態宣言期間

（注）本文中に2回生、3回生等の表記があるが、これは関西圏における大学生の学年の呼称を表している。2回生は2年生のことである。

## 1. オンラインによるピアノ個人レッスンについて

大阪教育大学音楽教育部門では、年度当初、部門内からリアルタイムによるオンラインレッスンが提案されたが、タイムラグおよび通信環境等により難しいことが判明したため、動画提出方式を用いるこ

<sup>†</sup> Rie HIRAI\* and Hiroya HIRAI\*\*: Piano instruction of Teacher training course of University in Covid-19

Keywords: Music education, piano, piano education, online instruction, COVID-19

\* Cooperative Faculty of Education, Utsunomiya University

\*\* Faculty of Education, Osaka Kyoiku University

（連絡先：rie@cc.utsunomiya-u.ac.jp 平井李枝）

（連絡先：hirai-h18@cc.osaka-kyoiku.ac.jp 平井裕也）

とにした。幸いにも受講する全学生がスマートフォンを所有しており、メッセージアプリケーションが使用できる体制が整っていた。そのため動画の送受信には学生の利便性を考慮し、LINEを採用した。LINEで演奏動画の確認後、教員から電話やメールでコメントする指導方式を取り入れた。令和3年度におけるレッスン方式と受講学生の人数は表2、表3の通りである。

	レッスン方式	実施された時期	合計
前期	オンラインレッスン	第1,2,3,5,6,7,14,15回	8回
	対面レッスン	第4,8,9,10,11,12,13回	7回
後期	オンラインレッスン	第3,4,5,6,7,8,9回	8回
	対面レッスン	第1,2,10,11,12,13,14,15回	7回

表2 レッスン方式と回数

	前期		後期	
	演奏基礎	演奏表現	演奏基礎	演奏表現
2回生	21名	7名	15名	15名
3回生		7名		6名
4回生		11名		6名
合計	21名	25名	15名	27名

表3 ピアノ個人レッスンの受講学生の人数

### ①動画提出に関する学生の感想

学生からは、演奏動画の作成に時間が掛かり非常に大変だった、という感想が多くみられた。機械の操作が難しかったのではなく、より良い演奏を目指していたからである。客観的に自分の演奏を聴くということが自己研鑽の助けとなっていた。

### ②担当教員によるメールでのコメントの送信

学生から提出された演奏動画を全て確認したうえで、模範演奏動画や要修正箇所の提示資料の作成、メールのコメントによる感想や指導箇所の解説など、対面レッスン以上に時間と労力が必要になった。

### ③レッスン曲目について

レッスン曲は、2回生がバロックと古典派、3回生がロマン派と近現代、4回生が任意の領域から選択できるようにした。3回生や4回生は高度な技術と表現力を要する楽曲を選択している。表4に示す楽曲は、音域が広く、かつ幅の広いダイナミクスが用いられているため、重厚な音の響かせ方、余韻を感じさせる歌わせ方、音の減衰を意識したペダル操作などが必要となる。

### ④事前課題

楽曲の練習に取り掛かる前に、学生には事前課題（コメント1）を与えた。学生は、課題に取り組んだ後に演奏動画を提出した。

これから練習に取り掛かる楽曲について調べ次回提出しましょう。  
またこの楽曲の全体像を捉えるために音源を聴きましょう。

### コメント1 練習に取り組む前の課題について

演奏表現		前期	後期
2回生	領域	バロック	古典派
	楽曲の例	J.S.バッハ：フランス組曲、イギリス組曲	ベートーヴェン：ソナタ Op.10-2、ソナタ Op.24、等
3回生	領域	ロマン派	近現代
	楽曲の例	ショパン：エチュード Op.10-12、エチュード Op.25-1、ポロネーズ《英雄》Op.53、等	A. ベルク：ソナタ Op.1 S.ラフマニノフ：《6つの楽興の時》Op.16、等
4回生	領域	バロック、古典派、ロマン派、近現代から	
	楽曲の例	S.ラフマニノフ：前奏曲 Op.23-7、23-8 S.ラフマニノフ：練習曲《音の絵》Op.33-2、等 ストラヴィンスキー：ペトルーシユカより3楽章、等	

表4 各回生の演奏曲目の領域と曲目の例

## 2. 学生から送信された演奏動画の分析

本項では、学生から送られてきた演奏動画を筆者（平井裕也）が視聴した際の、各表現法について分析した結果である。

### ①スタッカート奏法

	聴きとれた	どちらともいえない	聴き取れない
2回生	15名	0名	0名
3回生	7名	0名	0名
4回生	9名	0名	0名

表5 動画からスタッカートの表現が聴きとれたか

スタッカートは音を短く切る奏法である。

表5に提示しているように、2回生から4回生が提出した動画からは、スタッカート奏法が確認できた。

## ②ダイナミクスの表現

ダイナミクスは音量の変化のことを指している。これらの変化を動画から聴き分けるには、まず楽曲全体の音量を判定しなければならない。

	聴きとれる	どちらともいえない	聴き取りづらい
2回生	0名	0名	15名
3回生	0名	1名	6名
4回生	0名	2名	9名

表6 ダイナミクス

2回生から4回生が提出した動画からは、表5に提示したように、ダイナミクスを聴き分けることが難しいことが明らかになった。マイクが実際の響きを記録し、その音をスピーカーで再現ができていないことも原因の一つに挙げられる。この他にも、スマートフォンのカバーでマイクを塞ぎ弱音ペダルを踏んだように音が籠る場合や、スマートフォンを直接ピアノに置くことで音が割れる場合、マイクの側に扇風機や除湿器を置いて撮影したことで騒音を拾っていたことなどが原因にもなっていた。

## ③ペダルの使用の目視確認

	確認できる	どちらともいえない	確認できない
2回生	0名	2名	15名
3回生	0名	1名	6名
4回生	0名	2名	9名

表7 ペダルの使用の目視確認

表7に提示したように2回生から4回生の調査結果からは、動画の角度が上半身のみとなっていたため、ペダルの使用の目視で確認することが難しかった。ピアノから離れた場所にカメラを設置すると足元のペダルまで角度に収まるが、ピアノから離すことにより指遣いや手の動きの確認に支障がでるため、どちらも兼ねることが難しい。

## ④運指の工夫について

適切でない指づかいの場合にはスムーズな演奏が困難になるため、指導者による確認と工夫が必要である。

	確認できる	どちらともいえない	確認できない
2回生	0名	0名	15名
3回生	0名	1名	6名
4回生	0名	2名	9名

表8 運指の確認

表8に提示されているように2回生から4回生から提出された動画からは、ほとんど運指の確認が出来なかった。原因としては鍵盤の真横からの角度や、身体よりも後方からの角度、ピアノから離れた場所から角度となっていたことが原因で運指の確認ができないことが多々あった。そのため「運指がわかるように鍵盤よりも高い位置から両手が映る角度で撮影する」というルールを定めた。

## 3. 学生Kに対する指導例

本項では、ショパン作曲ポロネーズ《英雄》を学習中の3回生、学生Kへの指導例を記載する。

筆者（平井裕也）は演奏動画を確認した後、譜例1と指導箇所の模範演奏とコメント2,3,4を学生Kに送信した。

譜例1 ポロネーズ《英雄》Op.53の指導用譜例

### スタッカート奏法について

①②③のスタッカートはワンフレーズで弾きましょう。

### コメント2 動画提出後に送信したコメント

スタッカート奏法は音を短く切る表現方法である。譜例1の①②③の表現を考察させ改善を促した。改善後に送信された動画からは、スタッカート奏法の使用は確認できたのだが、細かなニュアンスの違いについては聴き分けることが困難であった。

### ダイナミクスについて

Aは楽曲の始まりの音になります。もう少しテヌートを付けて音を響かせてください。  
Bのクレッシェンドの始まりをもっと小さな音にする  
と演奏効果が高められます。

### コメント3 ダイナミクスの表現について

譜例1のA,Bのダイナミクスについてコメント3に提示した内容を考察させ表現を工夫させた。提出された動画からは、スマートフォンの性能に原因であるかは不明だが、実際のAの音量やBの音量の

変化がどの程度であるかについての確認が難しかった。

ペダルについて  
A. の音は、ペダルを使用しながら音を響かせてください。

#### コメント4 ペダルについて

学生Kのペダルは動画からは目視できなかった。そのため、撮影の際に三脚を使用すること勧めたが欠品のため不可能であった。

そこでペダルは耳で聴こえたもののみで判断し指導することにした。スタックカートと同様に、再生するスピーカーからは実際の響きを忠実に再現できず、ペダルの微妙な踏み込み具合がどの程度であるかの判断が非常に困難であった。

学生Kのように高度な楽曲を学習する学生への指導には、ある程度まではオンラインで可能であるが、最終的に対面レッスンが必要である。

#### 4. おわりに

未だ終息の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症により、生活も学校の授業も、すべてが新しい様式への対応に追われている。特に音楽の実技指導は飛沫感染等のリスクが高く、実施に制限がかかることが多い。オンラインによるピアノ指導は、基礎的な段階においては対面とあまり変わらない成果を挙げることができる一方で、高度な表現を指導しようとした場合には限界がある。しかし、動画や録音提出を通して、学生が客観的に自分の演奏を視聴する機会が増え、自学自習の取り組みを促進させたり、遠方であっても受講できるなどの利点も多数ある。指導する側とされる側、双方の工夫によって、より高い成果をもたらすことも可能である。

今後もオンラインによる様々なピアノ指導法を探求し学生教育に役立てたい。

#### 参考文献

平井李枝 (2021) 「教員養成課程学生に対するオンラインによる「ピアノ弾き歌い」指導法の研究」『宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要』8: 215-222.

令和4年4月1日 受理



# Piano instruction of Teacher training course of University in Covid-19

Rie HIRAI and Hiroya HIRAI